

第2回小矢部川流域有識者会議 議事要旨

開催日時：平成21年8月25日（火）12:30～17:00

場 所：(財)高岡地域地場産業センター 5F「小ホール」

- 議事次第：1. 開 会
2. 挨拶
3. 出席者の紹介
4. 議 事
①第1回有識者会議の指摘事項について
②河川整備計画策定に向けた小矢部川の現状と課題について
5. 現地視察
6. その他
7. 閉 会

○ 議事

- ①第1回有識者会議の指摘事項について
②河川整備計画策定に向けた小矢部川の現状と課題について

【主な意見】

<第1回有識者会議の指摘事項について>

委員からの質問なし。

指摘事項の回答について了解された。

<河川整備計画策定に向けた小矢部川の現状と課題について>

(委員A)

- 資料では、環境の特徴は押さえられていると思う。
- 富山県内で最初に多自然型工法が採用されたのは頭川周辺の小矢部川だったが、それを取り上げる必要はないか。

(事務局)

- 小矢部川における多自然型川づくりについては、手元に資料がないため、次回整理して説明する。

(委員B)

- 港湾の取り扱いについて教えてほしい。

(事務局)

- 水面は河川管理者が管理し、施設は港湾管理者が管理している。今後、治水面で必要な施設を整理した段階で、港湾管理者と協議を図りたい。

(座長)

- 資料の5ページに示されている流下能力不足箇所において、整備計画の段階で概ねどの程度対応するのか。

(事務局)

- 流下能力不足箇所については、全川で概ね解消したいと考えている。ただし、港湾区域の取扱いは港湾管理者との調整は必要であると考えている。

(座長)

- 資料には、樋門・樋管からの流入量を把握しているとあったが、支川からの流入量は把握しているか。

(事務局)

- 正常流量の検討時点で把握している。例えば祖父川は $5.2\text{m}^3/\text{s}$ 、千保川は $7.8\text{m}^3/\text{s}$ である。
- 特に灌漑期においては庄川からの取水による影響があり、右岸側からの流入量が多くなる。

(委員C)

- 聖人橋の流下能力が大きく下回っている理由は。

(事務局)

- 堤防が未施工区間であり、現況天端から余裕高を引いた高さで流下能力を算定しているため、(数値として)流下能力は低くなっている。この区間では住宅地が高いところにあり、平成 20 年度の出水時にも大きな被害はなかった。

(委員C)

- 資料の 33 ページの河口土砂の掘削について、平成 14 年度以前はどの程度掘削しているのか。掘削後の土砂堆積は平常的なものなのか、それとも大きな出水が原因で H18 年に土砂が堆積してしまったのか。

(事務局)

- 手元に資料がないため、後日データを示したい。

(座長)

- そのデータがわかると土砂の収支がわかりやすくなると思うので、データの提供をお願いしたい。

(委員D)

- 維持管理について、ボランティアでは草むしりが精一杯である。平成 20 年度の洪水で河川敷の公園に土砂がたまり、活動しにくい状況である。その後 1 年たっても何も手だてがされていない。

(事務局)

- 堆積した土砂が治水に影響するなら河川管理者が対応するが、公園等として占有しているところの土砂堆積は占有者が管理してもらうこととなっている。
- 自治体も財政難のため、管理するにあたって厳しい状況であると思われる。

(委員D)

- 堤防の上にトイレを整備してもらったが、車道から車を降りてトイレを使用する人が多く、交通に障害が出てきている。そのあたりの連携についてもしていただけたら助かる。

(座長)

- 目的と利用実態が少し離れている点が課題であり、現状把握を行った方がいいのではないか。

(事務局)

- 車道側からのトイレ使用は想定外であった。実態に合わせてどのようにすればよいか、市のほうと相談させていただけたらと思う。

(座長)

- 昨年(H20年7月)の洪水の状況を教えてほしい。

(事務局)

- 昨年7月の洪水では、降雨は南砺市周辺の上流域に集中しており、津沢より下流では大雨はなく、また支川から横流入もなかった。そのため、下流に行くにつれて水位が下がる状況であった。

○ 現地視察後の意見

(座長)

- 小矢部川は、富山県の他の川にくらべ、穏やかな流れであった。川幅が決まっていて、ワンド、中州、植物など豊かな川であると感じた。
- 視察では魚類はあまり感じられなかったが、笹舟やサギ、釣り人がいたことから、魚はやはりいるのではないかと思う。
- 堰には魚道が備えられているが、取水口の近くに位置しているため、遡上した魚が田んぼの方に行ってしまうのか少し心配だ。

(委員E)

- 資料-2、25ページのグラフで、島分橋で回遊魚が少ないが、原因が分かっているのであれば教えてほしい。

(事務局)

- 原因は把握していないが、考えられる要因の一つとして、魚道での遡上に障害があるのではないかと思う。

(座長)

- 川に設置されていた看板に「川は気が短い」「豊かな自然を大切に」というのがあった。
- 「豊かな自然を大切にしましょう」という看板に示されている絵が、階段護岸と公園化された高水敷であった。豊かな自然という意味ではワンドなどの自然因子を描いた図を用意し、自然が豊かな場所に設置すると主旨に合うし、皆さんの関心も高まるだろうと感じた。

○ その他

【住民への意見聴取方法について】

整備計画の策定に向けて、住民への意見聴取を2回行いたいと考えている。

1回目は検討着手段階、2回目は原案作成の段階で行う予定である。

1回目は10月頃をめぐりに富山河川国道事務所のホームページでアンケートを実施する予定。

－ 以 上 －